



結婚するとなぜ赤ちゃんができるの

赤ちゃんを育てる「にんしん」

愛しあい、尊敬しあって結婚した男女が生活を始め、やがて、赤ちゃんが生まれて、新しい家族としてのくらしがスタートします。

結婚しても、赤ちゃんをつくらない、あるいは、努力しても赤ちゃんができない夫婦は別にして、結婚した多くの女性は赤ちゃんを産みます。

お母さんが、おなかの中で赤ちゃんを育てることを「にんしん」といいます。

男性と女性が性交してにんしんする

男性の性器でつくられた精子が、性交によって女性の子宮を通り、卵管へ入っていきます。卵管の中で、卵（らん）と精子がいっしょになると、受精が起こります。

この受精から、赤ちゃんが生まれるまでをにんしん期間といい、およそ280日、40週間です。

男性の精子は1回の射精で、数億個の精子が卵をめざしますが、この中のたった1個の精子だけが、卵の中に入り、受精することができるのです。

赤ちゃんはお母さんのおなかの中で、へそのおでつながり、生きるための栄養や酸素、水などをもらって育ちます。

にんしん10か月の終わりころ、身長約50センチメートル、体重約3キログラムにまで育ち、赤ちゃんは生まれてくるのです。（監修 保志 宏）

